

住民等参加推進・地域住民の意識啓発について

今年度は「大野地区で活躍する主体や団体等の把握・人的ネットワーク拡大」、「若者（高校生）のアイデアの実現化」について、大野地区地域課題解決検討会の下部組織であるプロジェクトチームが主体となって企画検討から運営を行い、地域住民へのまちづくりに対する意識啓発を行いました。

大野地区の地域団体との交流 【地域団体等の把握・人的ネットワークづくり】

- ・大野市の地域活性化に向けて活動する地域おこし協力隊と、子どもの居場所や子育て支援を行っているトモルカフェの方と交流する機会を設け、**お互いの活動内容を共有**するとともに、**今後の連携の可能性について意見交換**を行いました。
- ・意見交換の中で「今の若い人は誰かに必要とされることにやりがいを感じる」「好きなことや得意なことを通じて関わると良い」といった**若い世代（20歳代～40歳代）が持つ価値観や地域への関わり方について把握**することができました。また、「流しそうめんなど名水づくりのイベントをしてはどうか。イベントの道具などもあるので今後連携することは可能」「プロジェクトチームは大野地区内で個々にしている取組・担い手を面で繋ぐなど、まちづくりのハブになれると良いのではないか」といった**今後の活動に繋がる意見やアイデア**を聴取することができました。

若者（高校生）の提案の実現化 【プロジェクトチーム主体による企画・運営】

- ・昨年度の記念講演・パネルディスカッションで大野市内の**高校生から頂いたアイデアの実現化**に向けて、**プロジェクトチームメンバーが主体**となって「大野の水を活かした流しそうめんイベント」と「雪を活かした雪だるま・ミニ灯ろうづくりイベント」の**企画立案や運営**を行い、**地域住民等へのまちづくりに対する意識啓発**を行いました。

◆大野の水を活かした流しそうめんイベント

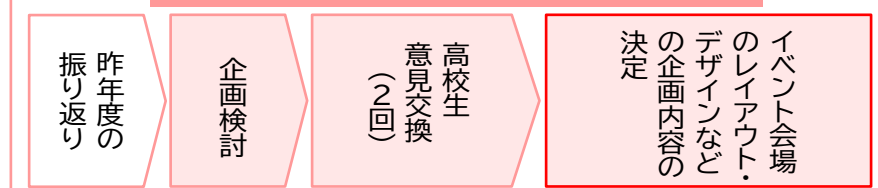
- ・大野地区レクリエーション大会とタイアップして開催することで、これまで参加が少なかった**子育て世代や女性の方にも参加**いただくことができました。
- ・アンケートでは**参加者の9割以上が概ね満足**されたとともに、**今後参加したいイベントのアイデア**を聴取できました。
- ・企画・運営にあたっては、**プロジェクトチームメンバーで本番に向けた練習と交流を兼ねたプレイベント**を行うことで、「メンバー同士の交流ができて楽しみながら活動に取り組めた」といった意見があるなど**メンバー間のコミュニケーションの活性化**にも繋がりました。



◆雪を活かした雪だるま・ミニ灯ろうづくりイベント

- ・タイアップ事業である「越前おおの冬物語」が大雪で中止となったため、「雪だるま・ミニ灯ろうづくりイベント」も中止となりましたが、今回の企画の検討を通じて、**大野地区住民への普及啓発だけでなく、来訪者への大野の魅力発信や交流促進の機会にも寄与する可能性があることを把握**することができました。
- ・奥越明成高校との連携を通じて、企画内容への若者の意見の反映や、若者に役割を担ってもらうことで、**若者の地域参画や世代を越えた住民同士の交流のきっかけづくりに繋げる**ことができました。

企画の検討の流れ



行政区再編モデル事業について

◆第6地区における先行的取組

- ・大野地区の中でも小規模な行政区が多くある第6地区を対象に、地区区長会において行政区や地域コミュニティを取り巻く現状や見通し、行政区再編のメリット・デメリットなどについて意見交換をするなどして理解を深めました。
- ・行政区の再編について、各行政区の意向を核にするためのアンケート調査を実施した結果、「いずれは再編したい」と回答した行政区が大多数でしたが、「すぐにでも再編したい」と回答した行政区はありませんでした。

◆福井市の先行事例の調査

- ・小規模な自治会合併を推進する取組を行っている福井市の担当部署へのヒアリング調査を実施し、福井市の市街地においても5世帯以下の小規模自治会が複数あること、行政から小規模自治会に対して合併に関する補助金の説明などが行われていること、補助金と説明では合併に進展する事例は少ないことが分かりました。

今年度の取組から見えてきたこと

●住民等参加推進・地域住民の意識啓発について

- ・イベントの企画・運営については今回のノウハウや経験を活かし、住民同士の更なる交流機会促進に繋げていく必要があります。また、雪を活かしたイベントは大雪のため実施できませんでしたが、高校生へのフォローアップ結果や提案を活かし、今後どのように活かしていくのか検討が必要です。
- ・プロジェクトチームメンバーは、高校生など若い世代の想いやアイデアを受け止め、実現化する活動に意欲的であることが把握できたとともに、若い世代が郷土に愛着や誇りを持つことは、将来の地域の担い手の確保に繋がるため、今後も引き続き取り組むことが望まれます。

●地区座談会開催について

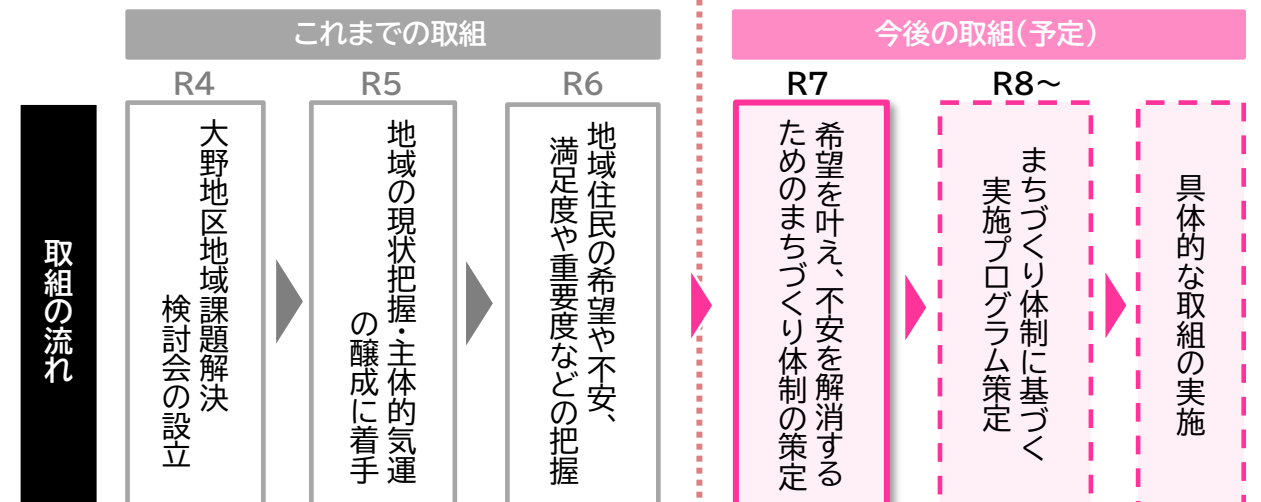
- ・今回の地区座談会の結果も参考としつつ、地区会長や区長を中心に地域主体で住民同士の話し合いの場やまちづくりの体制を整備していくことが必要です。その際、まちづくり活動への意欲が高い地区で先行的に取組を行い、目に見える結果を出すような進め方も考えられます。

●行政区再編について

- ・再編の必要性が高い行政区と個別に勉強会を開催するなど、地域コミュニティ組織である大野地区地域課題解決検討会が伴走型で行政には難しい踏み込んだ取組の実施を検討する必要があります。また、先行事例を参考に補助金制度の創設を要望するなど、連携・役割分担して取り組む必要があります。

来年度以降の取組

- 来年度以降は、今年度の地区座談会や具体的な取組の成果を踏まえ、引き続き地域住民と話し合いを行いながら、まちづくり体制・実施プログラムの策定に向けて、できることから取り組んでいきます。



開催概要

＜目的＞

- ・全国的にも生涯学習が中心の「公民館」から地域づくりの拠点である「コミュニティセンター」へと移行し、施設の管理運営や事業実施を住民自らが担うようになってきている背景を踏まえ、**地区座談会では、日頃気になることや困りごと、その解決策等について話し合い、住民自らが行動していくための一歩をみんなで考えていくことが目的**です。また、これまでに実施した基礎調査や中学生以上全住民アンケート調査の結果等についても広く住民に周知しました。

＜内容＞

- ・開催期間：第1回目 令和6年7月16日（火）～ 令和6年8月8日（木）
第2回目 令和6年10月10日（木）～ 令和6年11月12日（火）
第3回目 令和6年12月9日（月）～ 令和7年1月22日（水）
- ・対象：区長、一般住民（特に若い世代や女性の方）、プロジェクトチームメンバー
- ・参加者数：469名（※全3回累計）

地区座談会のプログラムと成果

第1回目：地区の魅力・課題の共有

- ①**全国的なまちづくりの潮流、現状・課題の報告**
これまでの調査結果について報告
- ②**意見交換**
①を踏まえた、地区の魅力と課題の抽出・共有

第1回目の成果

- ・過年度調査結果（基礎調査・中学生以上全住民アンケート調査等）を共有するとともに、**各地区の魅力や課題を把握・共有**することができました。

第2回目：優先的に取り組むテーマの設定・具体的な対策の検討

- ①**第1回目のまとめの報告・まちづくり事例の紹介**
住民主体のまちづくり活動の事例紹介（山形県川西町、愛知県長久手市、富山県富山市）
- ②**意見交換**
地区の魅力と課題の中から地域で優先的に取り組むテーマの選定（3つ）、各テーマについて自分たちでできる具体的な取組の検討

第2回目の成果

- ・魅力については各地区で特性に違いがあることを把握することができました。
- ・課題については「**少子高齢化の問題」「地域の担い手不足」「空き家・空き地問題」「除雪・排水の問題」**が取り組むテーマとして多い傾向にあることが把握できました。特に、「**空き家・空き地**」は**空き家になる前に地域で声掛けや体制づくりが重要**であること、「**除雪・排水の問題**」は**河川等の水量の問題があり管理者等との連携が必要**であることを参加者と共有しました。

第3回目：若者や女性などの担い手の参加・交流促進の検討

- ①**第2回目のまとめの報告・まちづくり事例の紹介**
まちづくりの受け皿・担い手確保の事例紹介（石川県羽咋市・白山市）
- ②**意見交換**
自分たちでできることを実践していくための担い手となる若者や女性等の地域への参加や交流促進の検討

第3回目の成果

- ・多くの地区で地域行事により地域への参加・交流が図られていることが把握できました。
- ・一方で、**高齢者が多く、世帯数が少ない行政区**で青年会などの地域団体の解散、地域行事の減少、担い手や参加者の固定化など**地域コミュニティの衰退が深刻化**していること、**隣接行政区との連携の可能性のある地域行事について把握**することができました。

各地区の意見交換のまとめ（今後各地区で取り組むことが考えられる活動）

第1地区

- ・地域で優先的に取り組むテーマのうち「自然が豊富・良い」（魅力）が最も多くなっており、特に「**フジバカマ・フクジュソウのプロジェクト**」は**今後進めていきたい**という意見が多くありました。また、**有終南小学校の芝生を活用したイベントの実施**についても多くの意見やアイデアがありました。
- ・有終南小学校と連携した「南っ子イルミネーション」は、複数町内との連携が図られており、子育て世代や現役世代といった**若い世代を中心としたプロジェクトやイベントの実施**が望まれます。

第2地区

- ・地域で優先的に取り組むテーマのうち「災害に強い」（魅力）は他の地区との違いが見られたとともに、「**災害が少ないので災害への意識づけが必要」「家庭用消防設備の点検の声掛けが必要」「災害時の避難先を確認する**」といった防災に関する意見やアイデアが多くありました。
- ・世帯構成により地域行事の差があることから、**第2地区内の行政区の連携**（篠座神社での交流イベント）や、**第1地区との合同によるイベントの実施**（有終南小学校での防災キャンプ）が望まれます。

第3地区

- ・地域で優先的に取り組むテーマのうち「生活環境が良い」（魅力）が最も多く選ばれており、特に「**公園の管理や活用**」に関する意見が多くありました。駅東公園など**広い公園を活用した近隣行政区による合同での地域行事やイベント等の実施**が望まれます。
- ・**女性有志の会（すみれサークル）が地域行事の実施や他の行事をサポート**していることから、今後も**地区内でのより一層の連携**が望まれます。
- ・日頃からの世代間での交流が少ないといった意見があることから、**時間がある人や特技がある人を登録して若者と高齢者同士が助け合える機会づくり**も望まれます。

第4地区

- ・地域で優先的に取り組むテーマのうち「駅のにぎわいが無い」（課題）は他の地区との違いが見られたとともに、「**自転車を列車に乗せられると良い」「イベント列車の運行」「駅前にイルミネーションやキッチンカーの設置**」などの**駅のにぎわい創出に向けた意見やアイデア**が多くありました。
- ・特に明倫地区は高齢者世帯が多いため、世代を越えて住民同士が交流できる地域行事が少ない状況となっています。**第4地区全体や近隣の地区との合同によるイベントの実施**などが望まれます。

第5地区

- ・地域で優先的に取り組むテーマのうち「風景が良い」（魅力）や「空き家や空き地が増えている」（課題）に関する意見やアイデアが多くありました。特に「風景が良い」では「**昔の町名を残す」「古民家や廃校の宿泊施設への活用」「看板や表示など観光客が利用しやすい・使いやすい環境整備」「観光客にお金を落としてもらう仕組みづくりが必要**」といった意見が多く、**地域の歴史や資源の更なる活用**が望まれます。また、第5地区では管理不全の空き家が多いことから、**空き家・空き地になる前からの地域での声掛けや連絡体制づくり**が望まれます。

第6地区

- ・地域で優先的に取り組むテーマのうち「城下町の町並みがある」（魅力）に関する意見やアイデアが多くありました。特に「**碁盤の目のウォークラリー」「動画・Instagram・ARの活用」「まちのことを気軽に聞ける仕組み**」など**まちの魅力発信・PRに関する意見やアイデア**が多くありました。第6地区では、歴史資源が多くあり来訪者なども多く訪れる地区であるものの、少子高齢化や地域の担い手不足、空き家の増加などの問題が深刻化していることから、**まちなかの資源を活用した住民・来訪者が一体となった交流・魅力発信**が望まれます。